

平成26年第14回教育委員会定例会（秘密会）

開会年月日 平成26年7月23日（水）
場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 委員長 内藤 幸子
同 委員 安藏 誠市
同 委員 外松 和子
同 委員 長島 良介
同 教育長 河口 浩

議 題

1 議案

- (1) 議案第37号 特別支援学級教科用図書の採択について

会議に出席した者の職・氏名

| | |
|---------------------|---------|
| 教育振興部長 | 郡 榮 作 |
| こども家庭部長 | 堀 和 夫 |
| 教育振興部参事教育総務課長事務取扱 | 岩 田 高 幸 |
| 教育振興部教育指導課長 | 堀 田 直 樹 |
| こども家庭部参事子育て支援課長事務取扱 | 木 村 勝 巳 |

- (1) 小学校教科書協議会からの答申について
(2) 小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの答申について

委員長

それでは、案件の3番、答申である。
答申内容について説明を受けたいと思うので、教科書協議会会長および特別支援学級調査委員会両会長に入室をお願いします。

福田小学校教科書協議会会長、増田小学校特別支援学級調査委員会会長、
室賀中学校特別支援学級調査委員会会長入室

委員長

それでは、答申の(1)番から始めたいと思う。

小学校教科用図書については、本年4月に教科書協議会を設置し、平成27年度から使用する図書に関する調査研究をお願いした。このたび答申をいただいたので、福田小学校教科書協議会会長から答申内容の説明をお願いします。よろしくお願いします。

小学校教科書協議会会長

小学校教科書協議会会長、南町小学校長の福田である。どうぞよろしくお願いします。

去る4月21日に教育委員会から諮問を受けた平成27年度から使用する小学校教科用図書について、私ども教科書協議会は慎重に調査研究を重ね、本日7月23日に答申として提出させていただきました。

今回対象となる教科用図書は、平成25年度に文部科学大臣による検定を経た図書であり総数48種、253件に上る。

答申に当たっては、まず練馬区教育委員会の練馬区立学校教科用図書採択要綱の規定に基づき、新規検定本の教科用図書について調査委員会および各校研究会に対して調査研究依頼を行った。

上述の調査委員会および各校研究会の調査研究に加え、平成26年6月東京都教育委員会発行の『平成27～30年度教科書調査研究資料』を参考とし、これらの図書を実際に手にとり、慎重に調査研究内容の整理を行った。

諮問では、検定済みの教科用図書について、小学校学習指導要領に示された各教科、領域の目標等を勘案し答申することとあったので、種目、教科ごとに学習指導要領における目標等と今回の教科用図書作成の傾向について若干触れさせていただく。

国語については、国語を適切に表現し、理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力および言語感覚を養うこと等が目標として示されている。

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域に対応した教材を各社とも効率よく配列した構成になっている。それぞれ子供の興味関心を引き出すわかりやすいタッチで絵を配置している。また、教材本文と言語指導や読書指導などの資料となる部分を分けるなど、調べ学習にも対応した工夫がされていた。

書写では、字形や字配りなど基本的な内容を、各社とも視覚的な要素を多く取り入れ、わかりやすい表記で示す工夫をしていた。また、学習の流れをわかりやすく示し、書写の学習内容を他教科や生活の中に生かせるような教材の構成となっていた。

社会については、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる、平和で民主的な国家社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うため、学び方や調べ方を身につける学習のための題材を工夫して、社会的事象を多面的に考察し、公正に判断する力と、それを表現する力を育成する構成になっていた。

また、各社とも問題解決的な学習や発展的な学習を進めるページを設定し、写真や図表などの資料を豊富に用意して、その流れをわかりやすく示して、児童の興味関心に対応できるように構成されていた。

地図についても、地図を、地名の位置を確認するだけでなく、社会的事象の様子や関係、自然環境のかかわりなどを調べるなどの活用を身につけることができるように、使い方や決まり事についてわかりやすく示す工夫がされていた。

算数については、算数的活動を通して数量や図形についての基礎的、基本的な知識お

よび理論を身につけ、日常の事象について見通しを持ち、筋道を立てて考える能力を育てるとともに、数理的な処理のよさに気づき、進んで生活に生かすという目標になっている。

各社とも生活に生かす場面を多く設定するとともに、興味関心を喚起し、学習したことを深め、広げられるような発展的な内容の記述にも配慮がされていた。また、子供の思考力、判断力、表現力を育成するため、ノートの書き方のポイントやノート例などをわかりやすく整理して示すなどの工夫があった。

理科については、見通しを持って観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物、現象の理解を図り、科学的な見方や考え方を養うという目標に合うよう、各社とも工夫した教科書づくりをしていた。

各社とも児童の発達段階に合わせ、興味を持続させて学習が進むよう工夫がされていた。また、単元末には学習のまとめがあり、学習の定着を図り、巻末では1年間の学習の要点が記述されていた。

生活については、具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会および自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養うことが目標になっている。

各社とも身近な事象と直接かかわる活動の楽しさを表現し、身近な事象への関心や活動の意欲を効果的に高める工夫をしている。また、社会や理科、総合的な学習の時間への発展を意識した教科書づくりをしている。

音楽については、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことが目標になっている。各社とも、写真や図表を効果的に使い、学習活動を児童が主体的に取り組むことができるよう工夫されている。

図画工作については、表現および鑑賞の活動を通して、感性を働かせながらつくり出す喜びを味わえるようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を育てることを目標としており、各社とも感性が高められるような豊かな表現活動を展開できるよう題材に工夫が図られている。

また、子供の創意が膨らむように作品例や制作方法が複数示されているほか、言語活動の充実を意識し、制作鑑賞から、話し合う活動への展開が見られた。

家庭については、日常生活に必要な基礎的な知識および技能を身につけ、家庭生活を大切にす心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを目標としており、各社ともに、日常の事象を広く捉えられるとともに、衣食住についての実践的、体験的活動が展開されるように構成、工夫されている。

また、作品の例を多くしたり、その道のプロの言葉を掲載したりするなど、子供の興味関心を高める工夫が見られた。

保健については、適切な運動の経験と健康、安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図ることを目標としており、各社ともに健康、安全や生活環境への配慮などを中心とし、言語活動の充実を意識し、話し合う活動への展開も見られた。また、防災に関する内容が取り上げ

られていた。

以上のとおり、学習指導要領に示されている各教科の目標を踏まえるとともに、練馬区立学校教科用図書採択要綱および練馬区立学校教科用図書採択要綱事務施行細目に基づき、調査研究を行った。協議会の報告は別紙1のとおり、答申書の2ページから20ページまで、種目ごとに記載しているのでお目通しいただきたい。

最後に、協議経過について説明する。答申書最後のページをお開きいただきたい。

平成26年度教科書協議会の開催状況および委員は記載のとおりである。

以上のとおり、答申させていただいた。よろしくお取り計らいいただくようお願いする。

委員長

ありがとう。学習指導要領の狙いや趣旨を踏まえた答申も口頭でご説明いただいて、よくわかったと思う。

それでは、答申内容について各委員からご質問、ご意見を伺う。

今回答申がこのような形になり、大変見やすいと思った。前は箇条書きに並べられていたが、今回、内容が分類され、まとめていただいたので読みやすいと思ったので、特にご質問もないということによろしいか。

委員一同

はい。

委員長

では、ご質問はないということなので、福田会長はじめ、協議会委員の方々には大変お忙しい中、答申いただきありがとうございます。

皆様によろしくお伝えいただきたいと思う。

それでは、退室いただきたい。福田先生、ありがとう。

福田小学校教科書協議会会長退室

委員長

続いて、答申の(2)番に移りたいと思う。

特別支援学級で使用する教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第14条および学校教育法附則第9条によって、毎年度採択替えができることになっている。

このため、本年4月に、特別支援学級教科用図書の採択にかかる調査委員会を設置し、調査・検討をお願いした。こちらも答申をいただいたので、最初に、増田小学校特別支援学級調査委員会会長から答申内容の説明をお願いする。よろしく願います。

小学校特別支援学級調査委員会会長

小学校特別支援学級調査委員会会長、大泉第三小学校校長の増田である。よろしくお

願います。

それでは、小学校特別支援学級教科用図書の調査研究について説明させていただきます。

4月21日に教育委員会から諮問を受けた平成27年度使用の特別支援学級教科用図書の調査研究について、小学校特別支援学級調査委員会は、本日7月23日に教育委員会に答申を提出した。以下、この答申について説明させていただきます。

資料をご覧ください。

小学校特別支援学級調査委員会は、特別支援学級設置学校各校に設けられた各校研究会に対し、学校教育法附則第9条にかかる図書の研究を依頼した。また、4月から3回会議を開催し、各校研究会からの報告書等を参考に、慎重に研究検討を行った。

では、2ページをご覧ください。

記書き1、調査研究を行った図書数であるが、各学校の意向を尊重し112冊の図書を調査研究した。継続採択候補図書107冊、新規採択候補図書5冊である。種目ごとの冊数および図書名等の詳細については、5ページ以降に掲載しているのを目通しいただきたい。

次に、「2 調査研究における意見等」である。図書の調査研究に当たっては各研究校の意見を尊重するとともに、児童にとって適切であるかどうか、図書の内容を整理し、調査研究した。

続いて、新規採択候補図書について説明する。

表になっているが、最初の『算数たんけん1 9までのたしざんひきざん』（算数、偕成社）である。内容は、実際の教え方に合った絵があり理解しやすいこと。小学校の低学年で行うタイル方式で進めるに当たり、数をタイルで示すやり方の理解から入っており、わかりやすいこと。絵が親しみやすいこと。学習のポイントが示されていること。また、ストーリー仕立てとなっており、多くの学級による授業方法に沿っていること等からいだろうということ話した。

以下、項目だけ、要点だけ話をしたいと思う。

『算数たんけん7 わり算わかったよ』（算数、偕成社）については、割り算の考え方、解き方が具体的に絵や言葉で説明されていること。絵が親しみやすいこと。割り算を単なる計算ではなく、概念として理解できるように進められていること。

次に、『ぐんぐんできる算数練習帳』（算数、きょういくネット）、教科の内容が幅広く載り、児童にわかりやすくつくられていること。挿絵がヒントになっていて、理解を助ける工夫がされていること。視覚的に1ページに適度な量であり、児童の関心が持続しやすいこと。重要な事柄を繰り返し学ぶことができるよう配慮されており、既習の確認にも活用できること。

4番目、『ジュニア学研の図鑑 地球の環境』（理科、学研マーケティング）、絵、写真が多く使われ、わかりやすいこと。問題の解決方法も示され、学習が発展するよう工夫されていること。項目別に分かれていて、ここには書いていないが、高学年にとっては自分で調べやすい内容であること。

5番目、『小学館の図鑑NEO 飼育と観察』（理科、小学館）である。絵や写真の色使いがきれいであること。飼育や観察のポイントが簡潔にわかりやすくまとめられていること。児童に身近な生き物を扱っていて、興味関心を持ちやすいこと。授業だけでな

く、児童の調べ学習にも活用しやすいことが挙げられた。

次に、18ページの別紙2をご覧いただきたい。小学校特別支援学級調査委員会の調査経過等である。また、参考資料として各校研究会の研究報告であり、平成27年度小学校特別支援学級教科用図書研究報告一覧を添付している。お目通しいただきたい。

以上で、小学校特別支援学級調査委員会の答申説明を終わる。

委員長

増田先生、ありがとう。

続いて、室賀中学校特別支援学級調査委員会会長から答申内容の説明をお願いする。

中学校特別支援学級調査委員会会長

光が丘第三中学校校長の室賀である。どうぞよろしくお願いする。

それでは、中学校特別支援学級教科用図書の調査研究について説明させていただく。

4月21日に教育委員会から諮問を受け、平成27年度使用の特別支援学級教科用図書の調査研究について、中学校特別支援学級調査委員会は、本日7月23日に教育委員会宛て答申を提出させていただいた。

以下、この答申について説明させていただく。

資料3をご覧いただきたい。

中学校特別支援学級調査委員会は、特別支援学級設置各校に設けられた各校研究会に対し、学校教育法附則第9条にかかわる図書の研究を依頼した。また、4月から3回会議を開催し、各校研究会からの報告書等を参考に研究検討を行った。

では、2ページをご覧いただきたい。

記書き1、調査研究を行った図書数であるが、各学校の意向を尊重し56冊の図書を調査研究した。継続採択候補図書51冊、新規採択候補図書5冊である。種目ごとの冊数および図書名等の詳細については、5ページ以降に掲載しているのでご覧いただきたい。

次に、「2 調査研究における意見等」である。図書の調査研究に当たっては、各研究校の意見を尊重するとともに、生徒にとって適切であるかどうか図書の内容を整理し、調査研究した。

続いて、新規採択候補図書5冊について、説明をさせていただく。お手元の資料にある順番で、まず『できるできる算数練習帳 5年』（数学、きょういくネット）。そこに箇条書きで書かせていただいているが、この図書に関しては委員会の中でも一番意見が多く出された図書である。箇条書きの3番目にあるとおり、「問題集的な内容もあるが」ということで、問題集は適さないというような評価基準もあるが、これに関しては、意見がいろいろ出た中で、そういう要素もあるが、授業の中で大変使いやすいという現場の声が多かった。内容的には大変系統的、段階的にまとめられている。1ページ分の内容がバランスよくまとめられている。そういうことから、適するということで判断させていただいた。

2番目、『4訂版歌はともだち』（音楽、教育芸術社）。これは新しくなったということ、今まででも数多くの学校が採用していたということである。さまざまなジャンルの曲

が数多く掲載されているのが、この歌集の特徴ではないかと思う。また、季節や行事ごとの分類がされており、その時々に応じてどの曲を歌ったらいいかということが大変わかりやすく構成されている。やや小さいサイズで、教科書としてはという声もあったが、コンパクトということがいろいろな場面で持ち運びができて、歌うのに大変便利だということで、適すると判断した。

3番目、『あーとぶっく ひらめき美術館 第2館』(美術、小学館) これも先ほどの評価基準で言うと、若干図鑑的要素もある内容ではあるが、大変子供たちには興味関心を引きやすい内容の作品がたくさん網羅されている。また、作品、写真が大きく、写真の印刷状況も大変きれいで見やすいということ。大人が見ても興味関心を引くような大変素晴らしい作品が、多く網羅されている。そして、この第2館のほうでは書き込みなどの工夫があって、授業の中でこれは使いやすいのではないかという声があった。

次が、同じ『あーとぶっく ひらめき美術館 第3館』であるが、これもほぼ同じような評価をいただいた。ただ、こちらの第3館のほうでは、作品を対比させるなど、鑑賞のポイントを絞った工夫があり、これが第3館の大変興味を引いたところである。たしか猫をモチーフにした作品を幾つか並べて、それを対比させるというような鑑賞の視点を子供たちにわかりやすく説明している内容があった。ということで推薦させていただいた。

最後、『絵を見て学ぶこどもの英語2』(英語、数学研究者)である。2番目に書いてあるとおり、会話中心の構成であり、今のコミュニケーションな英語の授業という点では、授業の中で大変使いやすいという評価を受けた。そして、各ページに単語の意味が、下のほうに小さく載っているが、そのことが学習の手助けになって、特別支援学級の子供たちには大変わかりやすい構成になっている。カラーではないのが、若干残念であるが、その分シンプルで、イラストが見やすい。塗り絵をしたくなるようなシンプルなイラストで、それも好評であった。

次に10ページ、別紙2をご覧ください。中学校特別支援学級調査委員会の審議経過等である。また、参考資料として、各校研究会の研究報告を含めた平成27年度使用中学校特別支援学級教科用図書研究報告一覧を7ページに添付している。ご覧ください。

以上で、中学校特別支援学級調査委員会の答申説明を終わる。

委員長

ありがとう。

それでは、各委員のご質問、ご意見があれば、小学校のほうから行きたいと思うが、いかがか。

では、私から質問させていただく。小学校のほうの4ページに、今年度の冊数が112冊、平成25年度は126冊ということであるが、冊数が減っているということはどういう理由か。

小学校特別支援学級調査委員会会長

各校に特に理由は聞いていないが、昨年度までに選んだものが十分評価があるという

ふうに私たちはとっている。つまり、これまで採択したものが、児童の教育効果を上げているということで、来年度についても同じものを使用したいということだと思っている。

委員長

新しく5冊選ばれているものが入ったために、古いものがもう要らなくなるという考えもあるのかとも思ったが、そういうことも含めてか。

小学校特別支援学級調査委員会会長

実際、音楽で新しい教科書として出てきたものもあったが、それは絶版であった。だから、よいと思われているものがいつも続いているかということ、実際に探してみるともうなくなっていたというものもあったので、今の子供たちの実態に合わせたものを先生方が探す中で、出会えた年はたくさん出るが、そうでないときは新しいものも少ないということだと思う。

委員長

わかった。ありがとう。

もう一点であるが、前回までは学校ごとに図書を挙げてコメントがあったと思う。今回は、教科ごとに並べられているが、各校は、国語なら国語の数冊あるうちのどれかを選んでいく。もちろん全部を備えるわけではなくて、この中から選んだ、挙げられたものは教科ごとに分類されていると解釈すればよろしいか。中学校のほうも同じかと思うが、どれかを使っている。

教育指導課長

今回は、図書名ごとにまとめて、その理由等を挙げさせていただいた。学校名、学校ごとの使用学年ということではなく、図書名でまとめたということであって、学校によって教科用図書を使う学校もあれば、使わない学校もある。また、検定本を使う学校もあるということである。

委員長

少し外れた質問になると思うが、こういう傾向というのはどこの特別支援学級も同じような一般図書なのか、教科用図書を使う傾向になってきているということはあるのか。それは言い過ぎか。

小学校特別支援学級調査委員会会長

小学校の特別支援学級では、学校数が結構あるので、また、児童数が学校によって相当違いがある。大泉第三小学校は現在5名、1年生が1名で、あとは5、6年生と偏りもある。お隣の大泉小学校は30人いる。児童の実態によって相当選ぶ教科書が変わってきてしまうということや、学校の特色によって教科書の内容も大きく変わるので、本当になぜ20ぐらいの特別支援学級なのに100冊を超える教科書があるのかということ、

児童の実態に合わせて毎年検定をしているということだと思う。

委員長

わかった。ありがとう。
室賀先生、何かあるか。特になければ結構だが。

中学校特別支援学級調査委員会会長

一般的な図書から選ぶのは、やはり教員にとってはかなり大変な作業なので、担任会という組織で、お互いが情報交換をして、いい本が見つかったらそれを各校に紹介したりしており、そういう意味では、ある程度使いやすい教科書に絞られていく傾向はあるという気はしている。

委員長

委員の皆さんからご意見、ご質問。外松委員、どうぞ。

外松委員

今、お二人の会長にお話しただいて、本当に現場の先生方がどれを教科用図書にしていこうかと決めていく作業はやはり大変なものがあると感じた。本当にご苦労ありがとう。

今回、それぞれ5冊ずつ新規ということで挙げられているので、先ほどご説明いただいたが、また私どももしっかり見させていただき、採決をしていきたいと思う。

委員長

ほかの委員の方はいかがか。特にないか。

それでは、質問がないということなので、増田会長、室賀会長はじめ、調査委員会の方々には、大変お忙しい中ご苦労さま。ありがとう。

十分参考にして、これから本をよく見たいと思う。皆様によろしくお伝えいただきたいと思う。

増田小学校特別支援学級調査委員会会長、室賀中学校特別支援学級調査委員会会長退室

委員長

それでは、これからは教育委員会としての審議に入るので、各委員においては机上に配置した見本本を点検していただきたいと思う。その後、採択したいと思う。

見本本の点検